## がん検診のメリットとデメリットについて

下記、厚生労働省のホームページで案内されているように、100%病変を発見できる検診はありません。 検査自体にも診断者の読影能力にも限界があり、ある程度の見逃しの発生は、どのような検査でも起こりま す。その一方で、治療不要の病変を見つけて、結果的に不必要な検査や治療を行ってしまうこともあります。

これらに対し当院では、

## AI診断や二重読影を導入して診断の正確性を高めています。



がん検診には利益だけではなく、不利益があることも十分理解して、受診しましょう。

(引用元: <u>国立がん研究センター がん検診の適切な受け方 がん検診について</u>: <u>[国立がん研究センター がん情報サービス 一般の方へ]</u> (ganjoho,jg)、がん検診事業のあり方について(令和6年7月) \_pdf (mhlw.go.jp).

マンモグラフィ・胸部エックス線・胃エックス線検査に伴う放射線被曝等

引用元:厚生労働省HP(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000059490.html)

の偶発症

X 早 期 が ٨, を 発 見. べ き *t*-場 合  $\mathcal{O}$ 効 果 で す